

1	日野駅		日野駅は明治23年（1890）1月6日に開業され、昭和12年（1937）現在の場所に移転されました。現存する数少ない木造駅舎のひとつです。絵柄は当時の汽車をイメージしたものです。
2	ギャラリー カフェ大屋		明治20年代に建てられた見世倉造りの建物を改装したギャラリーです。柱の多さと踏み天井と言われる天井兼2階の床が特徴です。大屋は屋号。
3	日野煉瓦橋		東京の大動脈、JR中央線を支える明治生まれの煉瓦です。明治23年（1890）甲武鉄道開業に伴いこの地に架橋されました。今も現役で頑張っています。HBWはHino Brick Works（日野煉瓦工場）の頭文字。
4	井上源三郎 資料館		佐藤彦五郎の依頼により天然理心流を紹介したのは井上源三郎の兄・井上松五郎です。井上家は沖田家と親戚関係があり、沖田惣次郎も遊びに来ていたようです。松五郎は家を継いで八王子千人同心となり多くの記録を残しました。松五郎、源三郎の生家の土蔵が資料館になっています。絵柄は、「葡萄の葉＝武道」と「栗鼠＝律す」で、「武道を律す」の言葉遊び。
5	とんがらし 地蔵		やんめ地蔵。欣浄寺角地にある、とんがらし地蔵・明和3年（1766）年が、めでたく「日本のお地蔵さま百選」に入選しました。このお地蔵様の前で沖田惣次郎が遊んでいたとの話も残っています。
6	坂下地蔵		市有形文化財。享保元年（1716）今から約300年前に江戸小舟町井田八左右衛門近隣232人の人々によって、この地に造立されました。ここが日野宿の西の起点となります。
7	宝泉寺		臨済宗建長寺派。元徳年間（1330年頃）の開創。新選組六番隊組長井上源三郎のお墓、持ち上げ観音、江島生島事件に連座し切腹した金丸四郎兵衛のお墓、夢想国土のお庭等もあります。絵柄は持ち上げ観音。
8	八坂神社		天王さま。伝説によると、多摩川の淵から拾い上げられた牛頭天王像を勧請し祠を建てたのが八坂神社の始まりといわれています。安政5年（1858）奉納された額には日野宿の天然理心流剣士23名の名があります。絵柄は、明治7年（1874）に鳥居と本殿に掲げられた有栖川宮二品熾仁親王書の「八坂社」の篇額からデザインしたものです。
9	親水広場		日野用水。美濃加治田城主佐藤紀伊守忠能の子と言われる佐藤隼人が、永禄10年（1567）北条氏照より罪人を貰い受け開削したと伝えられます。美濃加治田（現岐阜県富加町）には今も昔の日野のように用水と緑の稲田が広がっていました。絵柄は、日野用水の生みの親、佐藤隼人と用水に生息するナマズ・ドジョウ・スジエビをデザインしたものです。

10	大昌寺		浄土宗知恩院派。慶長7年（1602）、八王子の大善寺の開山である中秀助給和尚こと讃誉牛秀が隠棲の場所として建立したといわれています。ここには、新選組のスポンサー佐藤彦五郎のお墓があります。絵柄は、本堂の細密な彫り物をデザインしたものです。
11	佐藤彦五郎 新選組資料館		新選組最大の支援者であり土方歳三の従兄である佐藤彦五郎。一説によると浪士募集は小野路（町田）の小島家より日野宿の佐藤家に伝えられ、彦五郎の声かけに応じた日野宿の人々を引率する責を近藤勇に託したとも伝えられます。盛車（せいしゃ）は彦五郎の雅号「春日庵盛車（かすがあんせいしゃ）」から。
12	甲州街道駅		多摩都市モノレールは平成10年（1998）11月に開業し、現在は上北台、多摩センター間で営業運転をしています。甲州街道駅は新しい日野宿の玄関口として期待されています。
13	日野銀行跡		明治16年（1883）頃より20年初頭頃までここに銀行が開設されていました。建物は明治26年（1893）の火事で消失しましたが、右に見える土蔵の中には当時の金庫が残っているそうです。
14	東の地蔵		西明寺跡。福地蔵と呼ばれる。元は、万願寺の渡しと日野の渡しの分岐点（新奥多摩街道入口信号付近）にあったが現在地に移されました。このお地蔵さんが日野宿の東の起点となります。
15	日野図書館		問屋場高札場跡。問屋場には数名が常駐し、往還（宿）役人の下役として宿継ぎの業務内容を帳簿に記録し、併せて使用する馬の差配をする役目を担っていました。また、幕府からの指示を一般に公開する高札を立てる場所でもありました。絵柄は、「としよ」のひげ文字の前面に、日野宿発見隊の事務局がある日野図書館を記したものです。
16	渡邊家		都選定歴史的建造物。江戸末期から明治初期の建築といわれ、建設当初は土蔵でしたが、関東大震災の影響を受けたため昭和5年（1930）に改修されて大谷石による張石蔵の現在の姿になりました。
17	日野宿本陣		現存する建物は、佐藤彦五郎俊正が10年に及ぶ歳月を費やして準備を進め文久3年（1863）4月に上棟し、翌元治元年（1864）12月から住み始めたものです。この事業のため彦五郎は浪士隊に参加できず、名代として義弟土方歳三を参加させたとの話も残っています。